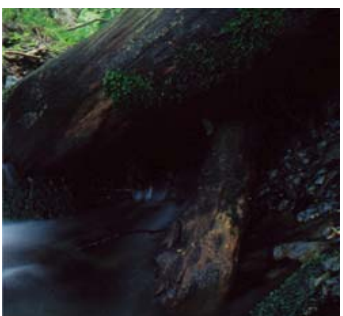
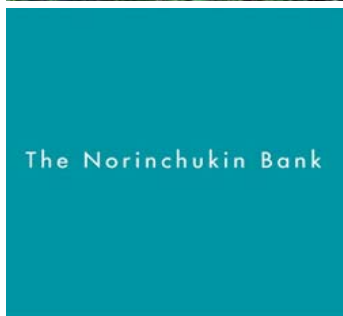
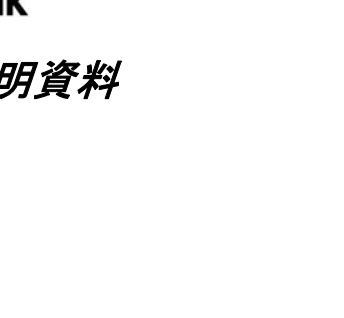
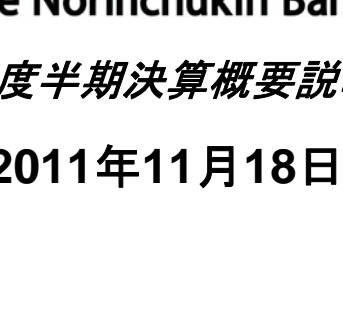
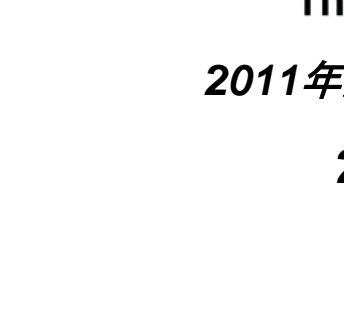


農林中央金庫

The Norinchukin Bank

2011年度半期決算概要説明資料

2011年11月18日



～*經常利益水準は順調に推移し、高水準の自己資本比率を維持*～

■ 經常利益1,610億円, 半期純利益1,242億円

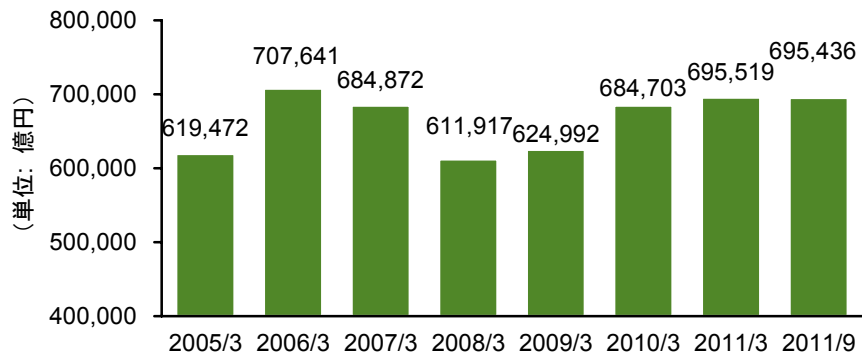
- 資金収支の着実な計上により, 順調に推移。
- 通期の目標經常利益水準は, 引き続き, 500～1,000億円。

■ 自己資本比率26.38%, Tier I比率20.15%(速報値)

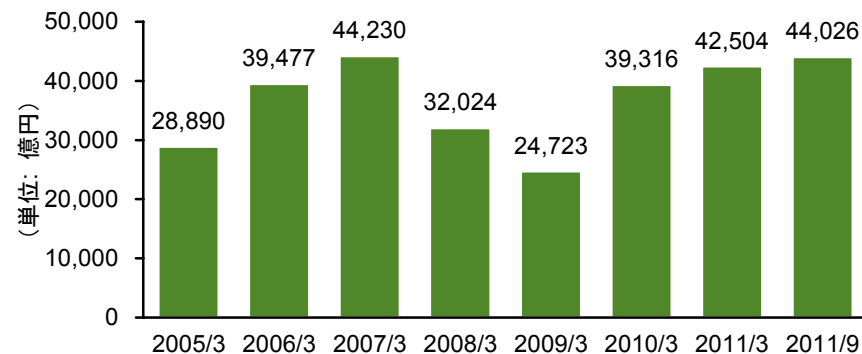
- 純利益の積上げと有価証券評価差額の改善等により, 自己資本比率, Tier I比率は各々3月末比3.62%, 3.35%上昇。
- 有価証券評価差額は▲1,795億円(3月末比1,634億円の改善)。

- 安定した利益計上と有価証券等の評価差額の改善により純資産額は増加基調。

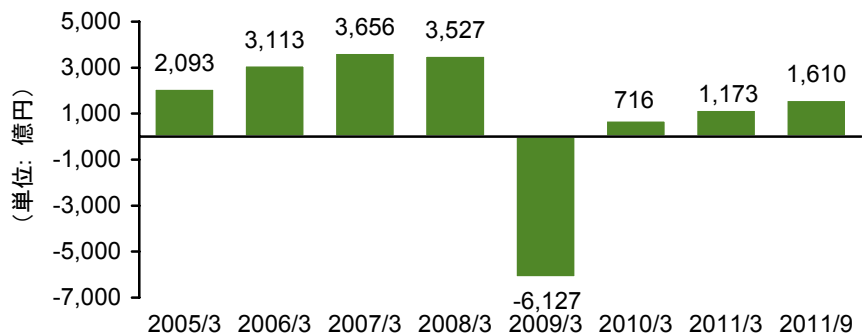
総資産額



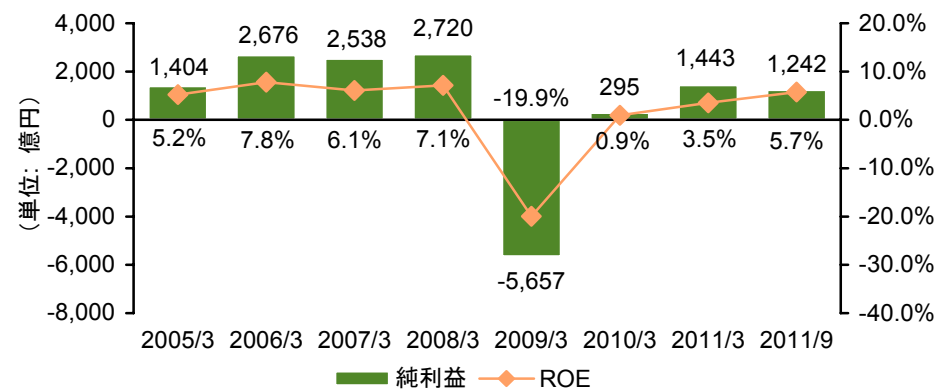
純資産額



経常利益



ROEおよび純利益



注: 2011年9月末現在, 単体ベース。2006年3月期以前の純資産額のデータは資本の部合計ベース
出所: 農林中央金庫

■ 資金収支の着実な確保により、順調な推移

(単位:億円)	2010年度 半期	2011年度 半期	増減額	増減率
1 経常収益	5,704	6,145	441	7.7%
2 うち資金運用収益	3,617	4,127	510	14.1%
3 うちその他業務収益	782	455	-326	-41.8%
4 うちその他経常収益(注1)	1,223	1,496	272	22.3%
5 経常費用	4,665	4,535	-129	-2.8%
6 うち資金調達費用	2,816	2,813	-2	-0.1%
7 うちその他業務費用	960	627	-332	-34.6%
8 うち事業管理費	506	566	60	12.0%
9 うちその他経常費用	328	470	142	43.2%
10 経常利益	1,039	1,610	570	54.9%
11 特別利益	130	2	-127	-98.0%
12 特別損失	2	2	0	30.5%
13 税引前半期純利益	1,167	1,609	442	37.9%
14 半期純利益	834	1,242	408	49.0%

■ 経常収益は、資金運用収益の増加により増収

➢ 有価証券売却益182億円(前年同期比▲392億円)

■ 経常費用は、有価証券売却損の減少、償却・引当コストの低減により減少

➢ 有価証券償却382億円(前年同期比▲300億円)

➢ 有価証券売却損264億円(前年同期比▲46億円)

➢ 与信関係費用は257億円の収益計上
(前年同期は119億円の収益計上)

■ 経常利益、半期純利益は、資金運用収益の増加と償却・引当コストの低減により、ともに増益

注1:2011年度より、「貸倒引当金戻入益」および「償却債権取立益」の計上区分を「特別利益」から「その他経常収益」に変更しております。

注:2011年9月末現在、単体ベース

出所:農林中央金庫

■ 利回り差は上昇(0.30%→0.46%)

	平均残高(単位:億円)			歩合(単位:%)		
	2010年度 半期	2011年度 半期	増減額	2010年度 半期	2011年度 半期	増減幅
1 (運用調達利回り差)				0.30	0.46	0.17
2 (運用)	692,935	692,850	-85	1.45	1.54	0.09
3 うち貸出金	128,475	143,474	14,998	0.69	0.58	-0.11
4 うち有価証券等	433,515	430,567	-2,947	2.02	2.21	0.19
5 円貨建有価証券	151,323	162,909	11,585	1.18	0.70	-0.48
6 外貨建有価証券	282,191	267,658	-14,533	2.46	3.13	0.66
7 うち特定取引資産	38	3,355	3,317	12.57	0.17	-12.40
8 うち短期運用資産等	121,510	78,755	-42,754	0.13	0.13	0.00
9 (調達)	692,935	692,850	-85	1.15	1.08	-0.08
10 うち信連等調達	392,254	412,514	20,260	0.87	0.76	-0.11
11 うち農林債	55,997	53,351	-2,645	1.23	1.17	-0.06
12 うち市場・対顧調達	181,392	167,789	-13,603	0.74	0.80	0.06
13 うち円貨市場調達	11,235	9,986	-1,249	0.19	0.18	-0.01
14 うち外貨市場調達	140,507	134,581	-5,926	0.34	0.38	0.04

■ 運用利回りが上昇し、調達利回りが低下したことから、利回り差は上昇(前年同期比+0.17%)

■ 運用利回りは、外貨建て有価証券の運用利回り上昇を主に、前年同期比+0.09%

■ 調達利回りは、円金利の低下等により、前年同期比▲0.08%

■ 総資産はほぼ横ばい、純資産は1,522億円増加

(単位: 億円)	2011年 3月末	2011年 9月末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	140,023	147,605	7,581	5.4%
2 有価証券	430,700	395,398	-35,301	-8.2%
3 金銭の信託	77,510	69,892	-7,617	-9.8%
4 現金預け金	18,280	40,205	21,925	119.9%
5 その他	29,004	42,333	13,329	46.0%
6 資産の部合計	695,519	695,436	-83	-0.0%
(負債の部)				
7 預金	409,570	418,067	8,497	2.1%
8 譲渡性預金	7,681	11,639	3,958	51.5%
9 農林債	54,216	52,466	-1,749	-3.2%
10 借入金	20,756	17,230	-3,525	-17.0%
11 その他	160,791	152,005	-8,785	-5.5%
12 負債の部合計	653,015	651,409	-1,605	-0.2%
(純資産の部)				
13 資本金	34,259	34,259	-	-
14 資本剰余金	250	250	-	-
15 利益剰余金	9,681	10,714	1,033	10.7%
16 その他	-1,686	-1,197	489	-
17 純資産の部合計	42,504	44,026	1,522	3.6%

■ 資産の部は、貸出金、現金預け金等が増加した一方で、円高等により有価証券・金銭の信託が減少し、ほぼ横ばい(3月末比▲83億円)

■ 負債の部は、会員からの預金が増加した一方で、借入金やその他の資金調達の減少により、3月末比▲1,605億円

■ 純資産は、純利益の積上げ、その他有価証券評価差額金の改善により、3月末比+1,522億円

■ 有価証券等の評価差額は3月末比1,634億円改善

(評価差額 単位: 億円)	2011年 3月末	2011年 9月末	増減額
【その他有価証券】			
1 株式	423	540	116
2 債券	13	413	399
3 国債	29	423	393
4 地方債	0	0	0
5 社債	-16	-10	5
6 その他	-4,488	-5,114	-626
7 外国債券	-1,135	690	1,825
8 外国株式	-33	-13	20
9 その他	-3,318	-5,791	-2,472
10 うち投資信託	-3,290	-5,799	-2,508
11 小計 ①	-4,050	-4,160	-110
【その他の金銭の信託】			
12 その他の金銭の信託 ②	1,199	2,454	1,254
【保有目的を変更した有価証券】			
13 その他有価証券から満期保有目的の債券へ 変更したもの ③	-578	-88	490
14 合計(①+②+③)	-3,429	-1,795	1,634

■ 内外長期金利の低下により、債券、外国債券、金銭の信託の評価損益が増加し、3月末比1,634億円の改善

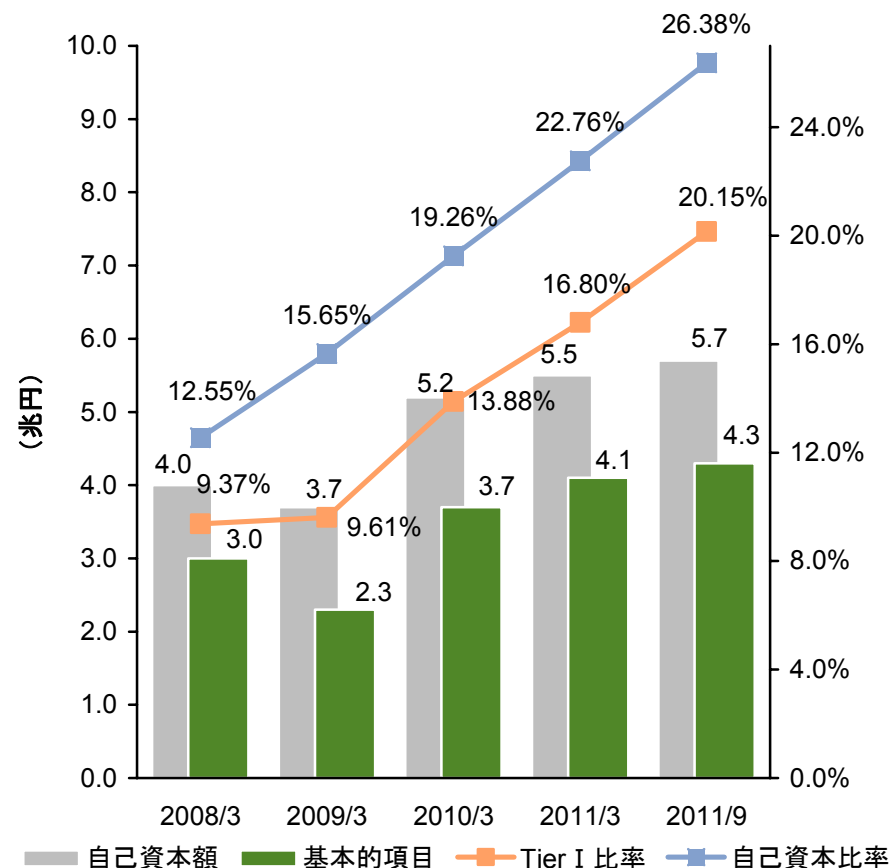
注: 満期保有目的の債券の貸借対照表計上額と時価との差額は2,357億円(プラス)。
2011年9月末現在、単体ベース
出所: 農林中央金庫

■ 自己資本比率, Tier I比率は各々26.38%, 20.15%と健全な水準で推移

自己資本の内訳(単位:億円)

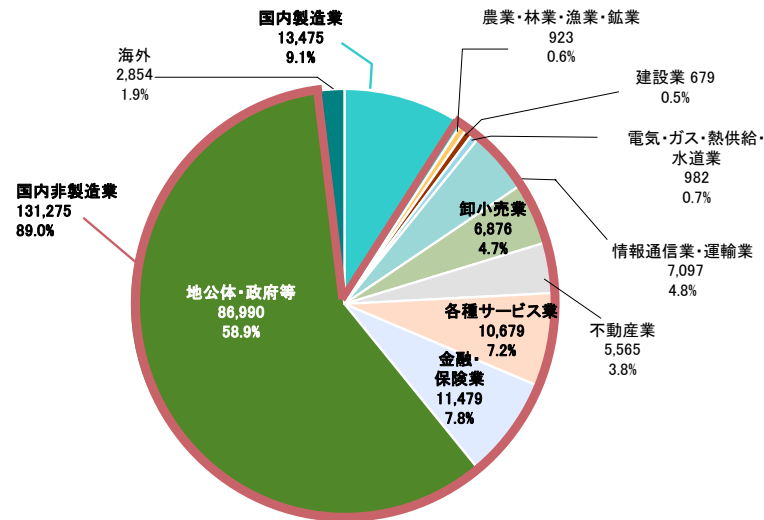
	2011年 3月末	2011年 9月末	増減
1 基本的項目(Tier I)	41,336	43,731	2,395
2 うち資本金および資本剰余金	34,509	34,509	-
3 うち利益剰余金	9,474	10,717	1,242
4 うちその他有価証券評価差額金	-2,216	-1,234	982
5 補完的項目(Tier II)	17,596	15,549	-2,046
6 うち永久劣後債務	14,860	14,860	-
7 うち期限付劣後債務および期限付優先出資	2,543	500	-2,043
8 控除項目	2,949	2,041	-908
9 自己資本額	55,982	57,239	1,257
10 リスク・アセット	245,938	216,943	-28,995
11 自己資本比率(国際統一基準)	22.76%	26.38%	3.62%
12 基本的項目(Tier I)比率	16.80%	20.15%	3.35%

自己資本比率の推移



■ 当金庫の特性を踏まえた、全体として健全性の高い貸出ポートフォリオを維持

業種別貸出金残高(単位:億円)

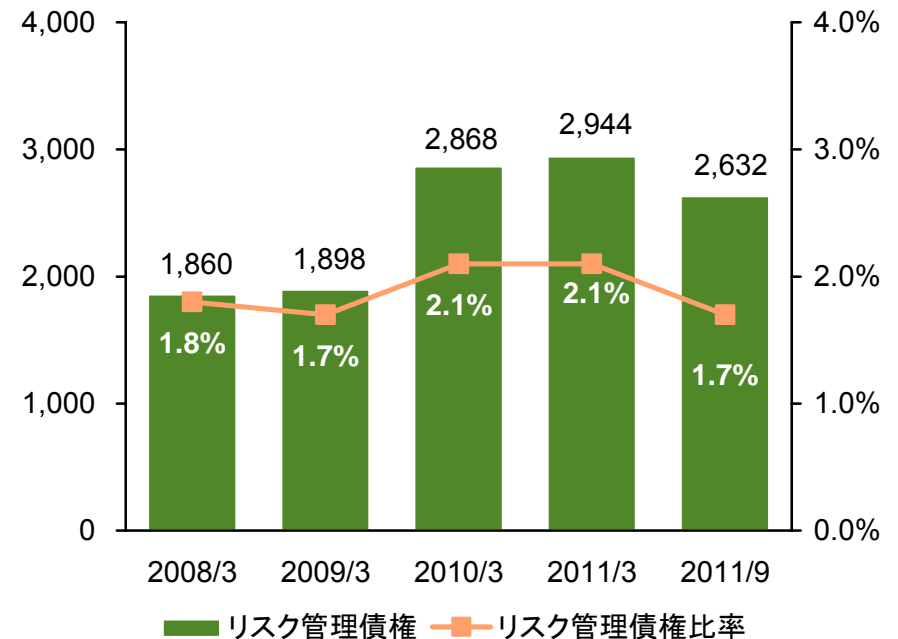


合計: 147,605

貸出先別貸出金残高(単位:億円)

項目	残高	%
1 系統団体	4,714	3%
2 関連産業法人	31,477	21%
3 その他(地公体・政府・金融機関ほか)	111,413	76%
4 合計	147,605	100%

リスク管理債権の推移(単位:億円)

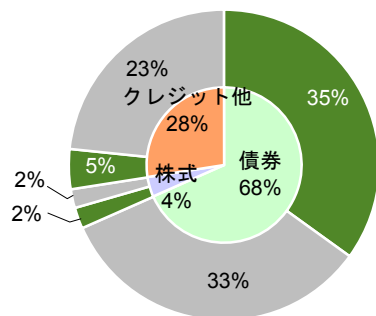


注: 2011年9月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

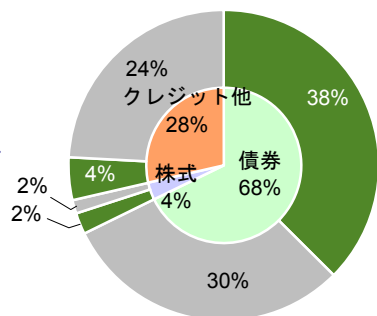
- 国際分散投資のコンセプトのもと、債券、株式、クレジット資産等の主要アセットクラスについて、通貨・地域等のバランスを考慮しつつ最適なアセットミックスの構築を志向

市場運用資産のリスク別内訳

2011年3月末



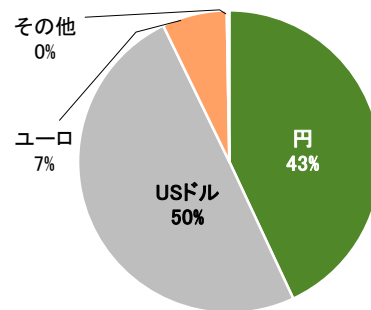
2011年9月末



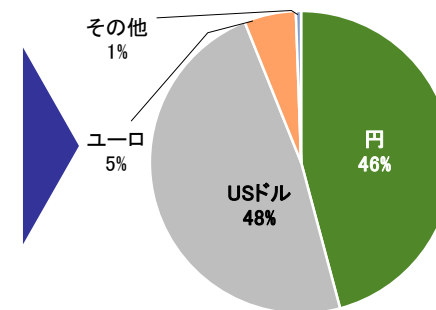
■ 国内 ■ 海外

市場運用資産の通貨別内訳

2011年3月末

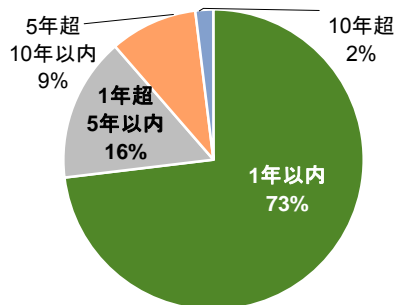


2011年9月末

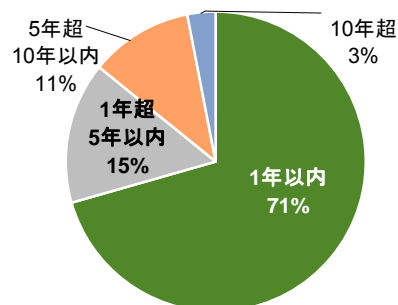


市場運用資産(満期がないものを除く)の金利更改満期別内訳

2011年3月末

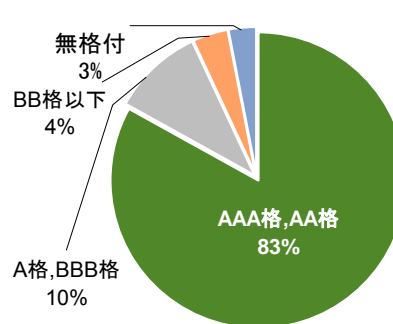


2011年9月末

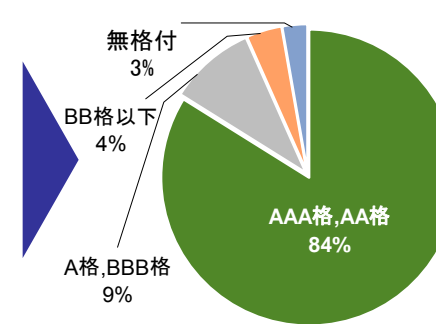


市場運用部門総資産の格付別内訳

2011年3月末



2011年9月末



注: 2011年9月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

■ 証券化商品^{(注1)(注2)}のポートフォリオは①高格付の、②一次証券化商品(資産担保証券(ABS))が中心

1 商品区分別エクスポージャー

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	3月末比
1 資産担保証券(ABS)	16,538	-	370	-	0	16,909	-2,855
2 住宅ローン担保証券(RMBS) ^(注3)	7,473	238	191	72	357	8,333	3,630
3 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	662	259	1,004	636	452	3,014	-509
4 債務担保証券(CDO)	1,804	3,831	2,352	786	1,311	10,086	-2,944
5 ローン債務担保(CLO)	1,797	3,357	1,999	551	812	8,519	-2,813
6 証券化商品担保 ^(注4)	-	378	321	204	468	1,374	-80
7 債券担保(CBO)他	7	94	31	30	29	192	-51
8 その他	-	-	-	444	565	1,009	-133
9 合計	26,479	4,329	3,919	1,938	2,686	39,353	-2,812

2 商品区分別評価差額・損益額

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	3月末比	損益額 ^(注5)
10 資産担保証券(ABS)	-133	-	-12	-	0	-146	46	-
11 住宅ローン担保証券(RMBS) ^(注3)	10	29	15	1	4	61	-56	-14
12 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	-122	-15	-48	-64	4	-247	71	-19
13 債務担保証券(CDO)	-57	-188	-193	-35	20	-454	100	-21
14 ローン債務担保(CLO)	-56	-174	-228	-56	2	-513	138	-9
15 証券化商品担保 ^(注4)	-	-1	16	0	17	34	-20	-3
16 債券担保(CBO)他	0	-12	18	19	0	25	-17	-7
17 その他	-	-	-	-	-	-	-	-
18 合計	-302	-174	-239	-99	29	-786	162	-54

3 通貨別エクスポージャー

(単位: 億円)

	エクスポージャー	3月末比	評価差額		損益額 ^(注5)
			3月末比	3月末比	
1 米ドル	27,641	-1,105	-462	48	-32
2 ユーロ	4,464	-2,011	-238	63	2
3 英ポンド	1,375	1,038	-9	2	-
4 円	5,872	-734	-75	47	-24
5 合計	39,353	-2,812	-786	162	-54

注1:証券化商品の定義は、バーゼルIIにおける証券化エクスポージャーを基本とした内部定義による。サブプライム関連商品を含む。

注2:証券化エクスポージャーは評価差額、損益額の反映後。一部のCMBSにおいてバーゼルIIにおける特定貸付債権に含まれるエクスポージャーが証券化エクスポージャーと別に412億円あり(評価差額▲9億円、損益額▲3億円)。

注3:サブプライムRMBSを含む。米国住宅金融公社関連のモーゲージ担保証券を含まない。

注4:ABS-CDO、CDO of CDO's等の2次、3次証券化商品。サブプライムRMBSを含むABS-CDO、CDO of CDO'sを含む。

注5:損益額は減損額と複合金融商品の当年度損益に含まれる評価損益との合計。

注:2011年9月末現在、単体ベース

出所:農林中央金庫

■ サブプライム関連商品へのエクスポージャーは687億円(損益額▲14億円, 評価差額112億円の反映後)

1. サブプライム関連商品への投資の状況(注1)(単位: 億円)

(1) サブプライム住宅ローン担保証券(サブプライムRMBS:一次証券化商品)(注2)

	エクスポージャー	3月末比		評価差額		損益額
1	AAA	68	-14	30	-11	-
2	AA	74	-16	31	-13	-
3	A	130	-48	16	-27	-
4	BBB	-	-12	-	-5	-
5	BB+以下	357	-76	4	-10	-14
6	合計	630	-167	83	-67	-14

(2) サブプライムRMBSを含むABS-CDO, CDO of CDO's(二次, 三次証券化商品)(注3)(注4)

	エクスポージャー	3月末比		評価差額		損益額
7	AAA	-	-	-	-	-
8	AA	-	-	-	-	-
9	A	46	-16	19	0	-
10	BBB	9	9	8	8	-
11	BB+以下	0	-11	-	-10	-
12	合計	56	-18	28	-2	-

(3) サブプライム関連商品計 ((1)~(2)の合計)

	エクスポージャー	3月末比		評価差額		損益額
13	AAA	68	-14	30	-11	-
14	AA	74	-16	31	-13	-
15	A	177	-64	36	-28	-
16	BBB	9	-2	8	3	-
17	BB+以下	357	-87	4	-21	-14
18	合計	687	-186	112	-70	-14

注1: サブプライム関連の融資は行っていない。

注2: ビンテージ別比率は①2004年以前100%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。

注3: ビンテージ別比率は①2004年以前100%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。

注4: サブプライムRMBSを一部でも含むABS-CDO, CDO of CDO's, 但しサブプライムRMBSの含有率は僅少。

注5: モノラインによる保証付金融商品と別にモノラインのCDS等を含む証券化商品(CDO)を保有。

注6: 米国ABSで裏付資産の保証前格付けはいずれも投資適格相当以上を確保。また被保証商品にサブプライム関連商品はない。

注7: レバレッジド・バイアウトを主な資金使途とする貸出で内部管理の定義による。貸倒引当金は92億円。

注8: この他に米国政府全額出資の米政府系機関である政府抵当金庫(ジニーメー)保証付の住宅ローン担保証券の保有額は18,697億円。

注: 2011年9月末現在, 単体ベース

出所: 農林中央金庫

2. モノライン関連商品への投資の状況(注5)(単位: 億円)

	エクスポージャー		評価差額		
	3月末比		3月末比		
1	モノラインによる保証付金融商品(注6)	260	-44	-65	16
2	証券業務におけるモノライン利用	-	-	-	-
3	合計	260	-44	-65	16

3. レバレッジドローンへの投資の状況(注7)(単位: 億円)

	エクスポージャー	
	3月末比	
4	国内レバレッジドローン	299 29
5	海外レバレッジドローン	493 -287
6	合計	793 -257

4. トレーディング等の状況

当金庫はABCP, SIV, レバレッジドローンの組成, 引受, トレーディングを行っており, 関連する商品のトレーディング勘定での保有や連結非対象としているオフバランス取引は行っていない。

ただし顧客企業の資産流動化を目的としたSPCを1件スポンサーしている(与信残高680億円)。

5. 米国住宅金融公社関連債券への投資の状況(注8)(単位: 億円)

	エクスポージャー		評価差額		
	3月末比		3月末比		
7	エージェンシー・モーゲージ債	32,322	-3,777	1,200	665
8	エージェンシー債	14,914	-5,477	-428	345
9	合計	47,237	-9,255	771	1,011

【参考】

・ ファンド投資内のサブプライム関連商品の状況

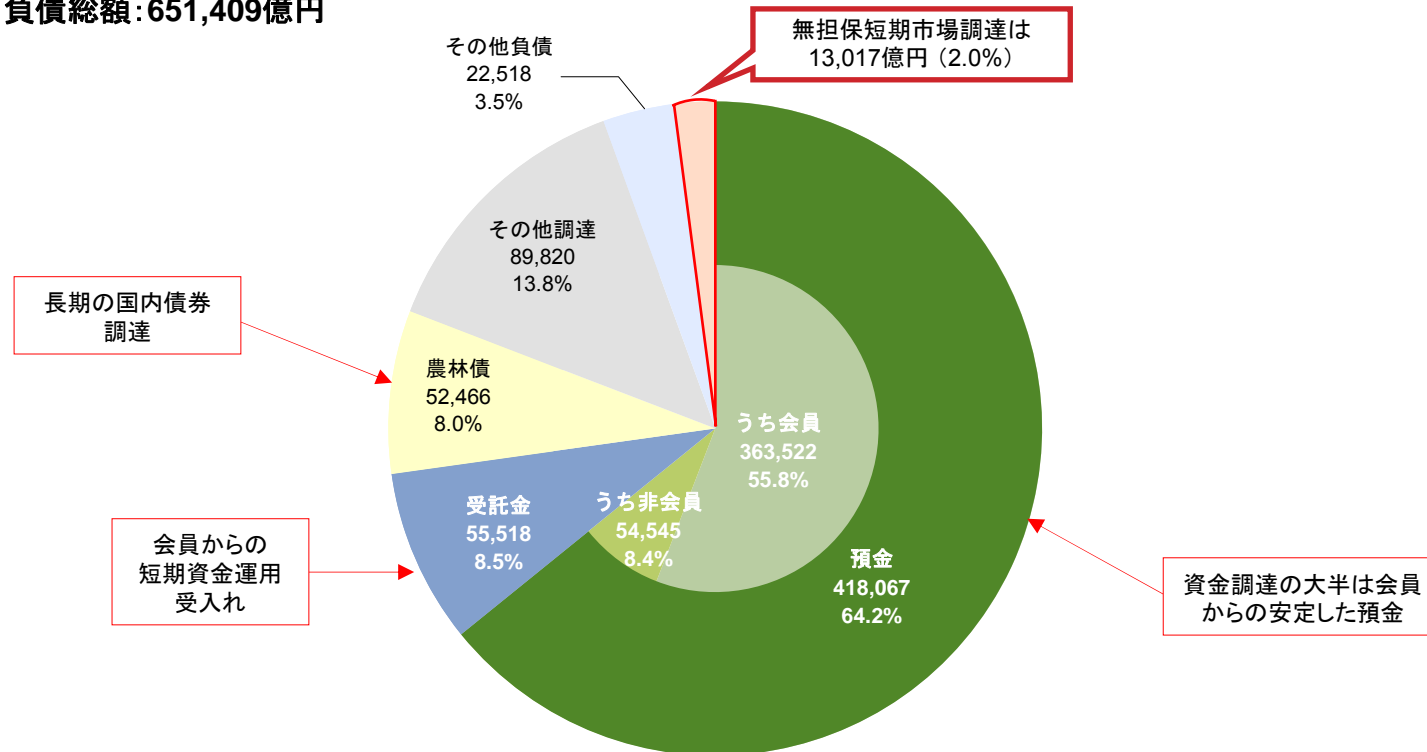
当金庫が運用を委託しているファンドにおいて, サブプライム関連商品が含まれるものはない。(*)

(*) ファンド内個別資産が把握できるファンドにおける当金庫調査ベース

■ 会員からの預金等により安定した市場調達

負債の種類別内訳

負債総額: 651,409億円



注: その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券質借取引受入担保金等、借入金(有担保、劣後ローン)を、その他負債は支払承諾、引当金等を、また無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金、および無担保コールマネーを含む。
2011年9月末現在 単体ベース

出所: 農林中央金庫

■ 連結経常利益, 純利益とも増益

(単位: 億円)	2010年度 半期	2011年度 半期	増減額	増減率
1 経常収益(注1)	5,781	6,178	396	6.9%
2 うち資金運用収益	3,640	4,139	498	13.7%
3 経常費用	4,739	4,594	-144	-3.1%
4 うち資金調達費用	2,816	2,813	-2	-0.1%
5 うち事業管理費	542	602	60	11.2%
6 経常利益	1,041	1,583	541	52.0%
7 特別利益	130	26	-104	-79.5%
8 特別損失	3	2	-0	-25.0%
9 税金等調整前半期純利益	1,168	1,607	438	37.5%
10 半期純利益	829	1,239	409	49.3%

注1: 2011年度より、「貸倒引当金戻入益」および「償却債権取立益」の計上区分を「特別利益」から「経常収益」に変更しております。

出所: 農林中央金庫

(単位: 億円)	2011年 3月末	2011年 9月末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	140,827	148,342	7,515	5.3%
2 有価証券	430,417	395,189	-35,228	-8.2%
3 金銭の信託	77,518	69,902	-7,615	-9.8%
4 現金預け金	18,376	40,336	21,960	119.5%
5 その他	31,198	46,732	15,533	49.8%
6 資産の部合計	698,338	700,504	2,165	0.3%
(負債の部)				
7 預金	409,493	417,971	8,477	2.1%
8 譲渡性預金	7,681	11,639	3,958	51.5%
9 農林債	54,163	52,408	-1,754	-3.2%
10 借入金	18,660	17,180	-1,480	-7.9%
11 受託金	43,972	55,518	11,546	26.3%
12 その他	121,769	101,668	-20,100	-16.5%
13 負債の部合計	655,740	656,387	646	0.1%
(純資産の部)				
14 資本金	34,259	34,259	-	-
15 資本剰余金	250	250	-	-
16 利益剰余金	9,723	10,753	1,029	10.6%
17 その他	-1,634	-1,145	489	-
18 純資産の部合計	42,598	44,117	1,518	3.6%

參考資料

~中期経営計画の概要~

- 会員への安定的な収益還元と協同組織中央機関・専門金融機関としての機能発揮
- 東日本大震災への復興支援

中期経営計画(2011~2012年度)

協同組織中央機関・専門金融機関としての機能発揮

復興支援プログラム

-金融支援プログラム, 事業・経営支援プログラム-

会員に共通した取組み

-事業面のサポート, 人材の充実・育成, 排出権取引-

JAバンク

-JAバンク中期戦略の実践:
農業メインバンク・生活メインバンク-

JFマリンバンク

-浜の漁業金融機能, あんしん体制-

森林事業

-森林再生サポート-

財務運営・リスク管理・資本政策

安定還元が経営上の最優先目標
経常利益(単体)は500~1,000億円/年

適切なリスク管理とポートフォリオ運営を継続

国際分散投資を基本に,
新たな良質な投資機会・分野にも挑戦

自己資本比率は20%程度の水準を維持

～復興支援プログラムの概要～

東日本大震災により第一次産業従事者、農協・漁協・森林組合が甚大な被害を受けたことを踏まえ、農林水産業の復興を全力かつ多面的に支援するため、「復興支援プログラム」を創設

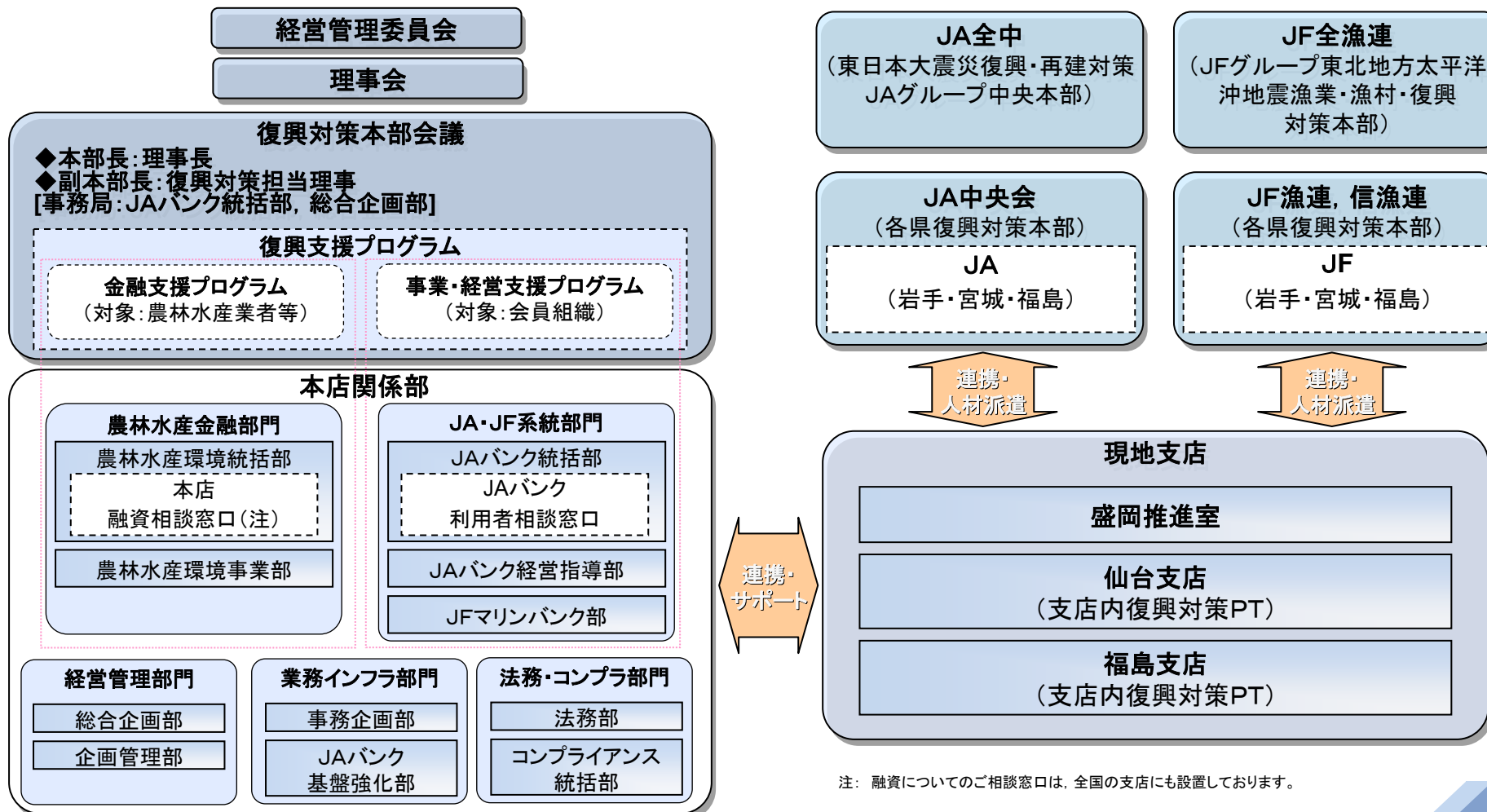
<復興支援プログラムの概要>

- 本プログラムは、複数年(4年程度)にわたって実施し、その間の事業規模(低利融資等)は1兆円、当金庫の支援額は300億円を想定しています。復興支援の推進にあたり、当金庫職員の人員派遣等の人的支援も併せて実施しております。

内 容	対象者	JAバンク・JFマリンバンク・森林系統
金融支援 プログラム	農林水産 業者等	金融対応（利子補給, 復興再生ローン（低利融資）等）
事業・経営支援 プログラム	会員組織	事業復旧（店舗, ATM, 端末等のインフラ復旧支援）
		経営対策（会員の経営基盤強化のための支援等）

～当金庫の復興支援態勢～

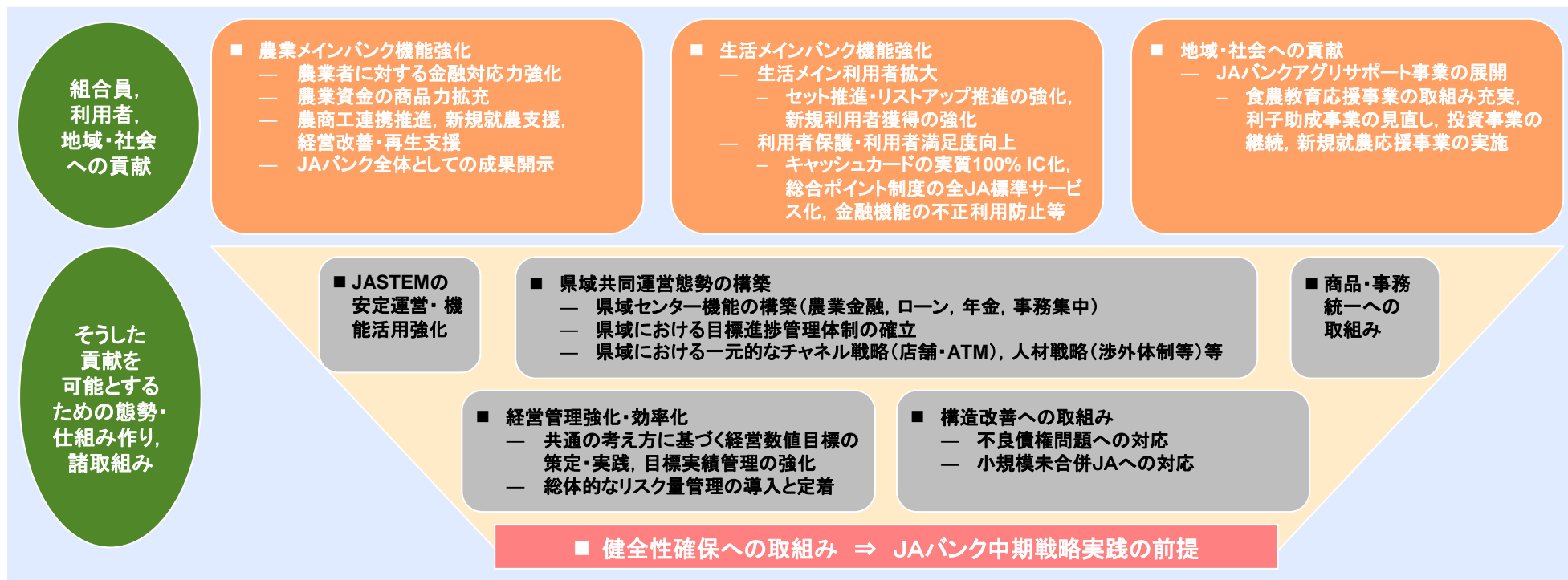
中期経営計画において復興支援を最重要課題と位置付け、本支店一体となって取り組んでいくため、理事長を本部長とする復興対策本部会議を設置するとともに復興対策理事を配置。復興プログラムの実施に向け大規模に人員をシフト。



~ (基本目標)「農業とくらしに貢献し、選ばれ、成長し続けるJAバンク」の実現 ~

■ JAバンクでは、基本目標の実現に向け、JA・信連・農林中金が一体となって、JAバンク中期戦略(平成22~24年度)を実践していきます

■ JAバンク中期戦略(平成22~24年度)における具体的実践事項(骨子)



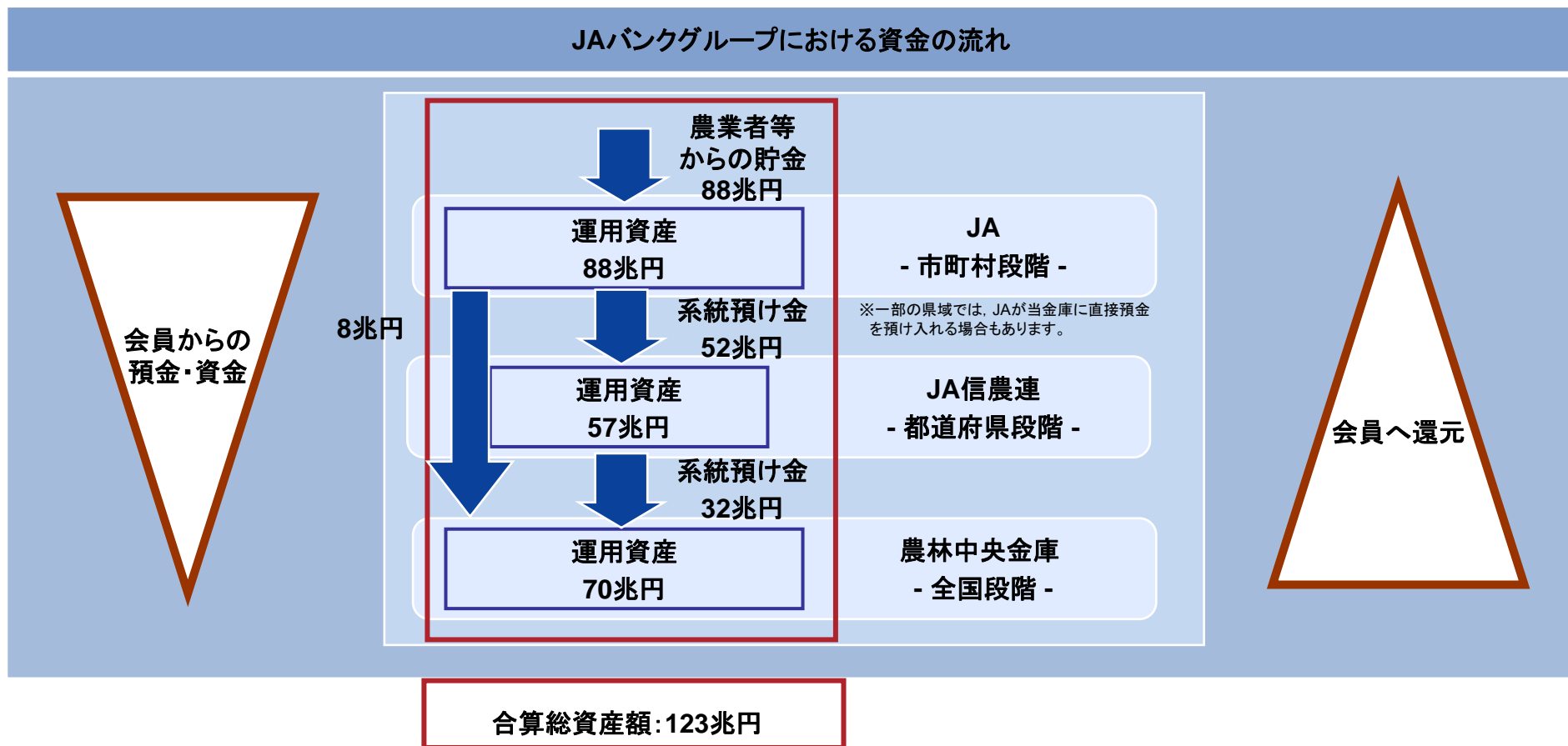
■ 平成24年度に目指す姿

- 農業法人, 大規模農業者との関係強化, 利用者数拡大
- 農家組合員, 生活利用者の満足度向上
- 次世代, 次々世代の利用者数拡大
- 生活利用者数拡大, 地域シェア向上, 利用拡充
- JA・JAバンクに対する地域の評価の向上

～ JAバンクグループにおける資金の流れ ～

- JAバンクグループ = JA(市町村段階) + JA信農連(都道府県段階) + 農林中央金庫(全国段階)

JAバンクグループにおける資金の流れ



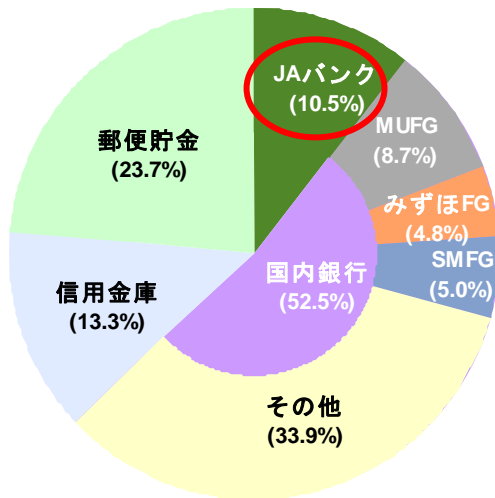
注：2011年9月末現在
 合算総資産額＝運用資産(88兆円+57兆円+70兆円)－預け金(52兆円+8兆円+32兆円)。
 出所：農林中央金庫

～JA貯金の安定的な推移～

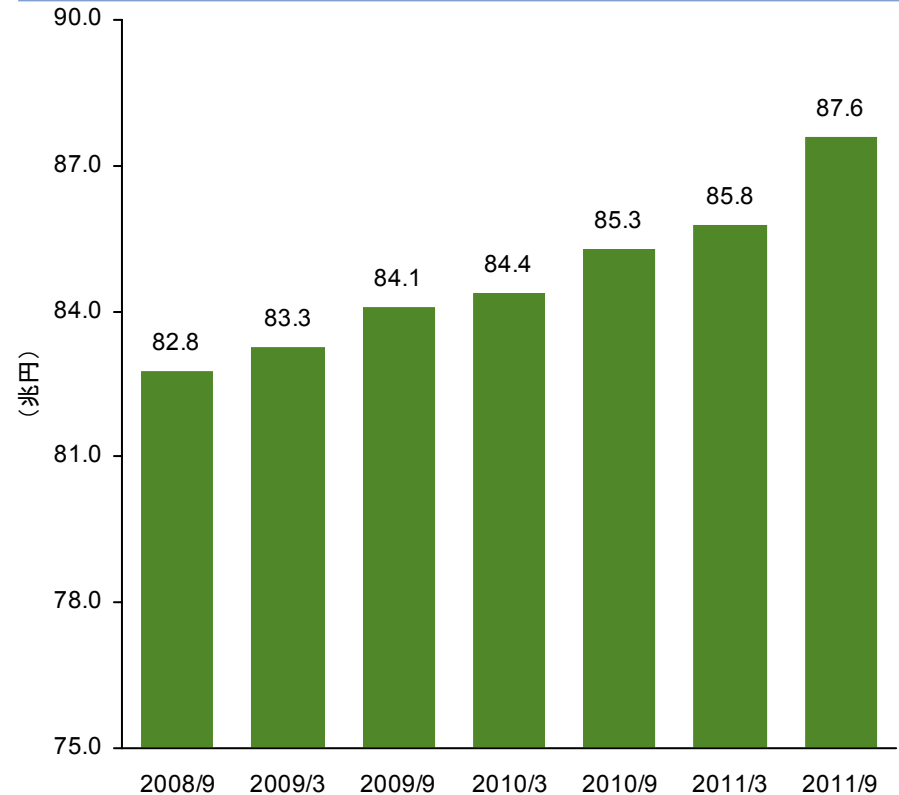
- JAの店舗数は8,631 (2011年3月末)に達し、強力な営業基盤とネットワークを有する(2011年4月時点のJA数は715)
- JA貯金残高は長期間に亘り、安定的に伸長している

預貯金残高(個人)

個人預貯金残高合計: 736兆円



JA貯金残高の推移



注: JA貯金残高は個人貯金、個人貯金以外(公金・企業等)の合計
出所: 農林中央金庫

注: 2011年3月末時点。日本銀行資料、日本郵政公社の決算資料、各行の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成。
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、郵便貯金は全貯金額

～設備・運転資金など幅広い資金需要への対応～

- 農業者の様々なニーズに対応した資金種類を準備することにより、農業を金融面からサポート

資金種別別農業資金の残高 (単位:億円)

種類	2011年3月末
プロパー農業資金	15,179
農業制度資金	6,784
農業近代化資金	2,058
その他制度資金	4,726
合計	21,963

農業資金の受託貸付金の残高 (単位:億円)

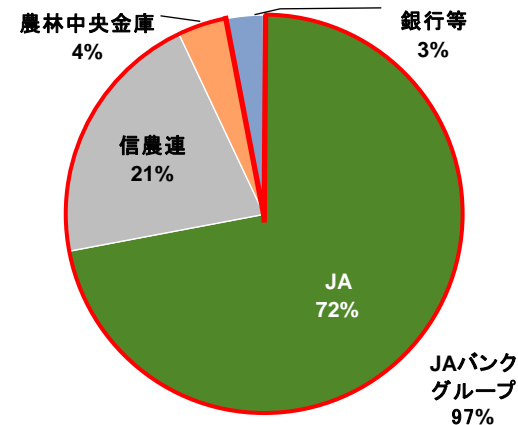
種類	2011年3月末
日本政策金融公庫資金	6,506
その他	16
合計	6,523

プロパー農業資金とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
 農業制度資金には、①地方公共団体が直接もしくは間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンクが低利融資するものが該当します。
 その他制度資金には、スーパーS資金や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

出所: 農林中央金庫

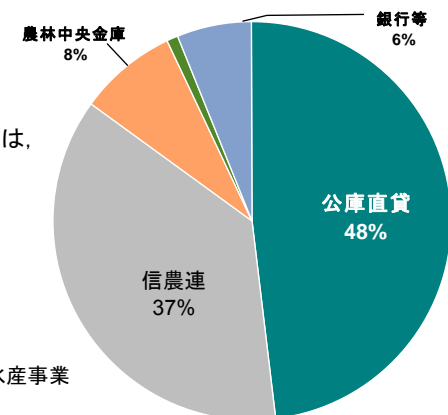
- 主要な制度資金である農業近代化資金, 日本政策金融公庫 農業資金の取扱いでは, JAバンクはトップシェア

農業近代化資金 融資残高シェア

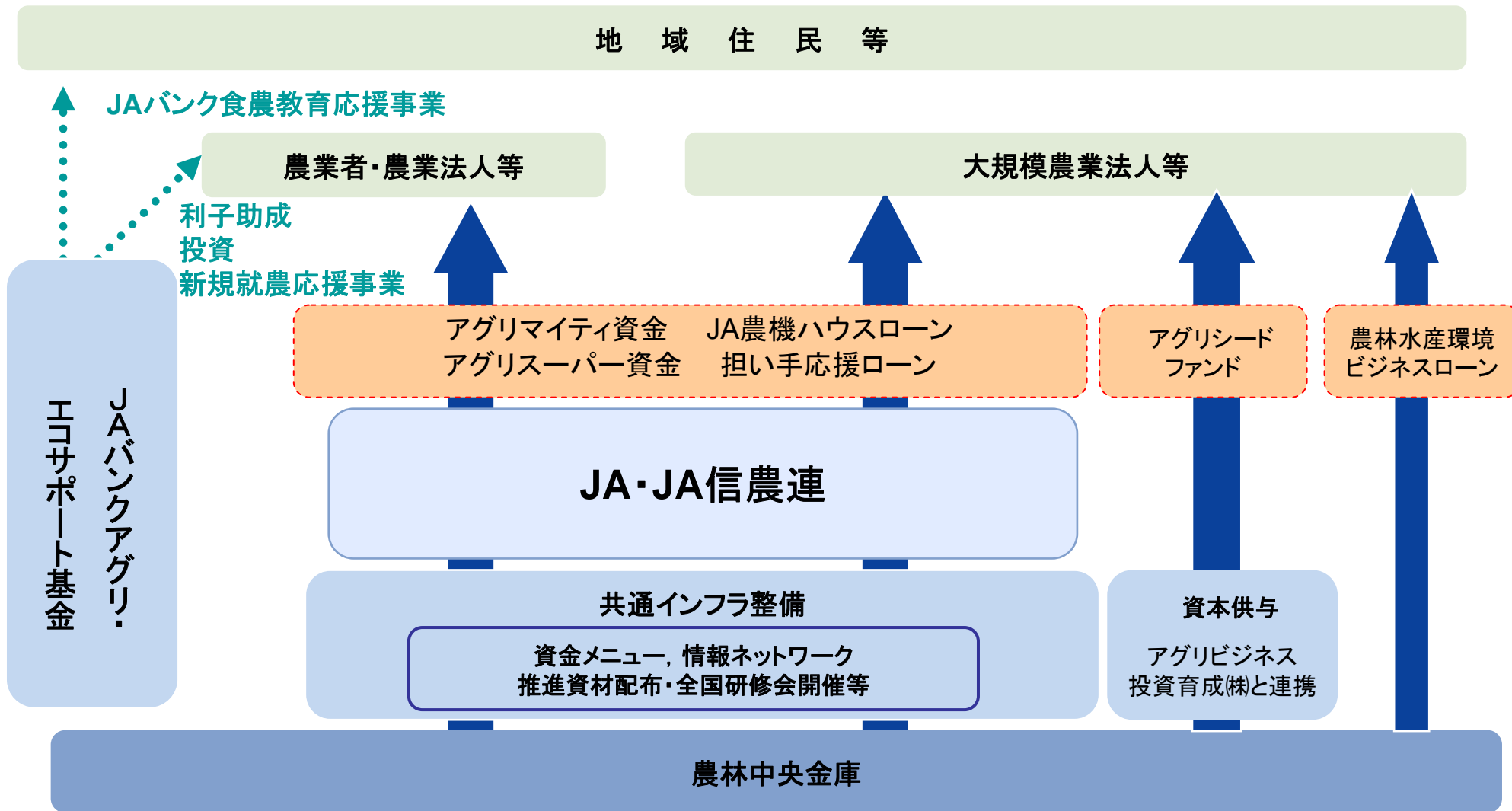


日本政策金融公庫 農業資金取扱残高シェア

信農連、農林中金が取扱う日本政策金融公庫の受託貸付は、主にJAを窓口としています。



～ JAバンクグループが一体となった農業担い手支援 ～



アグリマイティ資金: 運転・設備資金 JA農機ハウスローン: 生産設備資金 農林水産環境ビジネスローン: 生産および加工・流通・販売等にかかる設備・運転資金等
アグリスーパー資金: 水田・畑作経営所得安定対策対象者向け運転資金 担い手応援ローン: JAで行う税務対応支援等を受けている農業者向け運転資金

～ JAバンクグループとしての機能提供～

- 「農業メインバンク」として機能発揮のため、JA・JA信農連・農林中央金庫が一体となって各種取組みを実施。農林中央金庫は、インフラ提供等によりJA・JA信農連の取組みをサポート。
- 地域・社会への貢献として、JAバンクアグリ・エコサポート基金を通じ、「JAバンクアグリサポート事業」を展開

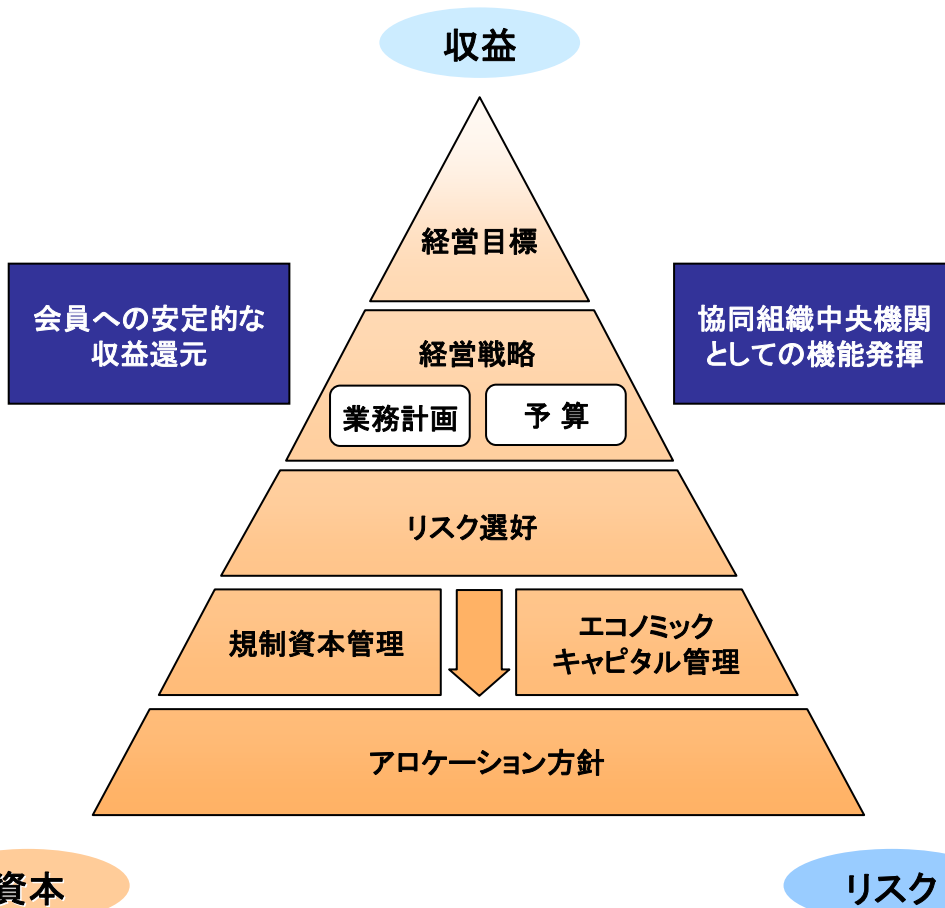
JAバンクの取組み		農林中金のサポート・取組内容
農業資金の提供を始めとする支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様化する農業者の幅広い資金需要に応じた各種農業資金・制度資金の適切な提供 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した農業者への訪問活動、相談対応、資金提案 ■ アグリビジネス投資育成(株)による出資や、JA三井リース(株)によるリースなど、総合的な金融サービスの提供 ■ 6次産業化に向けた農商工連携等の推進 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した戸別所得補償制度の制度説明や申請手続支援等の農業者サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業融資商品(全国要綱)の企画・推進、JA向け推進資材の提供 ○ JA・JA信農連と連携した農業法人への訪問、相談対応、資金提供 ○ 全国研修会の実施・県域研修会資材の提供などの人材育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手金融リーダー全国大会開催 ○ 全国連等と連携した農業担い手支援の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・JAグループ全国連担い手対応連絡協議会(全中、全農、全共連)によるJA事業間連携強化等への取組み ○ 農業法人育成のための資本供与の枠組み整備(アグリシードファンド、2010年4月) ○ 6次産業化に向けた農商工連携等への取組み <ul style="list-style-type: none"> ・JAグループ国産農畜産物商談会の開催(全国 年次開催) ・地域商談会の開催(九州 2011年10月、北陸 2011年11月) ・海外商談会への参加(香港 2010年9月) ・生産者・系統団体と商工業者とのビジネスマッチング ○ JA・JA信農連と連携した相談窓口設置など農業者の金融円滑化に向けた各種対策・支援
農業者の金融円滑化に向けた各種対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 疫病・災害などの被災農業者支援 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口設置、災害対策資金、利子助成、償還条件緩和等 ■ 農産物の価格低迷や農業生産資材の価格高騰などにかかる農業者支援 ■ 経営不振農業者の経営改善支援 	

JAバンクアグリサポート事業の取組状況

食農教育 応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食農教育等をテーマとしたオリジナル教材を20千校の小学校に贈呈 ■ 全国のJA等の食農教育等の取組みに助成実施 	投資事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業振興、環境貢献等に取り組む企業経営体に、アグリ・エコファンドを通じ資本提供・育成支援を実施
新規就農 応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規就農希望者(研修生)を育成するための研修を行う農家等に助成 	利子助成 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ JAが融資する農業資金に対し利子助成を実施

～ 自己資本充実度評価プロセス～

- バゼルⅡ 第二の柱を踏まえた自己資本の充実度評価プロセス (Internal Capital Adequacy Assessment Process=ICAAP)



ICAAPとは

- バゼルⅡ 最終合意 (第二の柱の第一原則)の趣旨を踏まえ、金庫が直面するリスクを適切に特定し、計測し、統合し、コントロールすることを通じ、そのリスク特性に対応した適切な資本を保持する態勢を有していることを確認するプロセス。原則年に一度実施し、理事会で内容を決定。

リスク選好

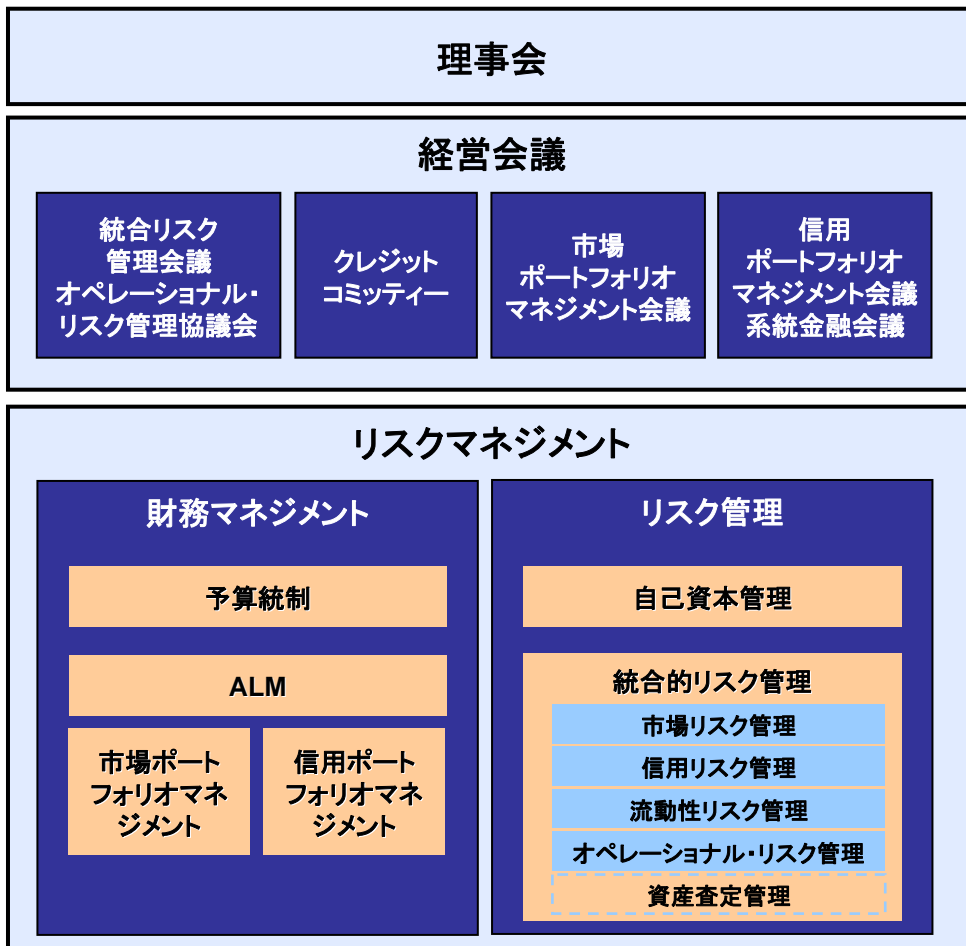
- 経営戦略遂行のためにとるべきリスクの種類及び規模などのリスクテイクに関する具体的な考え方を表明
- 経営の健全性を維持しつつ、会員等に対して安定的な還元を行うことが、最も重要な役割であることを確認
- 国際分散投資実践のためのポートフォリオ運営方針(アロケーション方針)は金庫のリスク選好を具体化したもの

リスク選好と統合的な業務運営

- リスク選好と統合的な予算・業務計画を策定、リスクや資本の状況とバランスのとれた財務および業務運営を志向
- リスク選好で設定した一定水準以上の自己資本充実度を確保するため、自己資本管理上のチェックポイントを設定

～ リスク管理体制の概要 ～

- エコノミックキャピタル管理を中心的機能として、リスクを統合的に管理していく仕組みとしての「統合リスク管理」を実践



1. 理事会

- 中期経営計画、業務計画、自己資本管理および運営、予算といった経営目標を決定。また、自己資本充実度評価プロセス(ICAAP)を実施
- 内部監査及び外部監査からのフィードバックをもとに、リスク管理体制の状況を把握

2. 経営会議

- 統合リスク管理会議にて、自己資本管理や統合的リスク管理、理論価格の取扱いにかかる重要事項を協議・決定
- そのもとで、市場・信用ポートフォリオマネジメント会議等にて経済金融環境等を週次でチェック、アセットアロケーション方針に基づく具体的なポートフォリオ運営方針を協議・決定
- 統合リスク管理会議・市場ポートフォリオマネジメント会議にて、資金調達、流動性にかかる事項を協議・決定

3. リスクマネジメント

- 市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスクを個別に管理する部署と、それらを統合的に管理する部署を設置しそれぞれの役割と責任を明確化
- リスクと資本のバランスの継続的なチェックを中核とする統合的リスク管理、ならびに、ポートフォリオ運営およびALM管理を通じて予算等の経営目標の達成を担う財務マネジメントを両輪とすることで、健全性と収益力に配慮した総合的なリスクマネジメントを実現

～ 主な系統組織の仕組み ～



- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。当金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、当金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。